

# 長泉寺

〒700-0807

岡山市北区南方3丁目10番40号

TEL (086) 223-7450

FAX (086) 221-0302

振込 岡山 01250-6-6418

ホームページ [www.chosenji.net](http://www.chosenji.net)

長泉寺だより 第354号

梅雨まだ明けぬ六月。しかしもう真夏のようである。これほどまでに暑いと、皆さんさぞかしビールが進むことであろう。

さてそのビールに関して、我が国のみが持つ特徴をご存じだろうか。それは、日本の我々とはとにかく「生」を好むということである。生ビールとは、熱処理をせず、発酵を止めていないビールを指す。海外では冷蔵庫のない時代からビールを飲んでいいため、生ではなく常温で保存ができ、香り高いものの方が好まれるという。

ビールに限らず、「生」の嗜好は日本の特色だろう。何よりが「食」だ。鮭、刺身にはじまり、生卵に馬刺しまで。海外では、加熱殺菌が常である。我々

## 「生」の仏

だって加熱しないことのリスクは承知だが、生食の魅力は余りに捨て難い。

食だけではない。今年、ファジアーノ岡山の生観戦はチケットが取れないほどの人気ぶりである。これについては海外も同じく、スポーツや音楽、その他の娯楽すべて、テレビで観るよりやっぱり「生」が一番であろう。

もし仏教という広大な思想体系の中で、密教とは何か？と問われるならば、「生の仏」と答えるのが良いと思う。言葉や画像で加工された仏も良いのだが、無加工の「生の仏」を押し、自身も生身のまま仏と成るのが密教の本分である。もちろん無加工がゆえに扱いには注意も必要だが、その効能は抜群である。(龍)

池田綱政公所縁

しらすがかんのん  
白須賀観音

夏まつり

7月12日(土) 17時00分~21時00分 於 長泉寺境内

ステージ、屋台出店、お楽しみ抽選会など、盛りだくさんのイベントを行うとともに、除災招福の靈験鮮かなる白須賀観音に供養を捧げます。どうぞお参り下さい。

## 本尊大祭

五月五日より三日三晩、本尊厨子を開帳し、檀越精霊に回向を捧げる「万灯万華供養本尊大祭」を奉修しました。

当法会は、お大師様が天長九年（八三二）の八月、四恩（父母・衆生・国王・三宝への恩）に報徳するために高野山上にて修された「万灯万華会」に倣う



林 康悠 僧正

もので、法会期間中、ひたすらに『般若理趣経』の功德を増し、本尊の倍增法楽、檀越精霊の菩提をご祈念申し上げる法会です。



堂内には各家精霊の戒名を書した灯籠をかかげ、同じくお位牌を本尊の傍に安置し、併せて卒塔婆供養も行う中、龍門住職は全九座にわたって「理趣三昧供養法」を修し、僧衆は「般若理趣経」を唱え続けました。

結願の五月八日は、真言宗岡山市内結衆の各御寺院様にご参集いただき、「中曲理趣三

昧法会」を奉修。併せて今年は、倉敷市西岡にある真言宗御室派行願院御住職・林康悠僧正より「花のこころ」と題したご法話を賜りました。

ご参拝、ご協力いただきましたすべての皆様に、心より厚く御礼申し上げます。



## 樂陽廟春秋祭

境内の牡丹が綺麗に咲いた四月二十一日、永代供養塔「樂陽廟」に祀られる檀徒各家精霊に回向を捧げる法会「春秋祭」

を奉修しました。

気候もよく、ご参拝いただいた約三十名の縁者皆様とともに、道場である玉佛堂にてご法楽を捧げ、さらには「光明真言」を唱えながら樂陽廟内を練り供養させていただきました。

法会後には、龍門住職よりお大師様の教えについての法話があり、お接待では毎月二十一日恒例のうどんに加え、今回はお善哉が振る舞われました。



## 五十回記念講座

「長泉寺 寺子屋文化講座」が開講五十回を迎えた三月二十五日、岡山出身の民俗学者・神崎宣武先生を講師にお招きし、記念講座を開催。著名な神崎先生が講師ということで満員御礼の賑わいとなりました。

先生は、ご多用の中でも事前に講演内容についてご相談下さり、当講座の趣旨を十分に汲んで下さった上で「霊山と神仏」という演題を設定されました。富士山にはじまり備前の熊山まで、いわゆる「霊山」に対する我が国の信仰の歴史、並びに神仏習合の精神文化についてお話し下さり、とても深い内容な



神崎宣武先生



ら大変わかりやすく、ご来場のすべての皆さまに喜んでいただけたものと存じます。

また同講座第五十一回目は、五月十九日に岡山大学の徳永誓子先生をお招きし、「中世備前地域の修験」についてご講演をいただきました。こちらも同じくご好評をいただいた次第です。今後も引き続き岡山に暮らす我々がもつと地元を知り、心豊かに日々を過ごしていけるよう、地域の歴史や文化についての講座を開催してまいります。

## 仁和寺・高野山参拝の旅

長泉寺杖心会は四月十二日、十三日、「仁和寺・高野山参拝の旅」を開催しました。

満席（二十七名）のご参加をいただいた今回の巡礼は、真言宗御室派総本山仁和寺と、弘法大師空海様がご入定される聖地・高野山奥之院を参拝するもので、当会の原点に立ち返る旅でもありました。

初日、先ず訪れた京都・仁和寺は、「御室桜」が満開を迎え、華の香るあたたかい春風に包まれている。まるで極楽にでもいるかのような（参加者談）、素晴らしい参拝となりました。普通は入ることができない旧紫宸殿・金堂（国宝）へも内拝させていただき、当山ともご縁の深い橋本高諄教学部長様よりご挨拶とご法話を賜りました。翌日の高野山はあいにくの雨模様となりましたが、それもまた



た聖地ならではの凛とした空気を引き立てており、とても良いお参りとなりました。参拝者皆様には、しとしと小雨が降る中、お大師様が今もなお静かに祈り続けられているというその息吹を深く感じていただけたことと思います。

ご参加いただきました皆様にはありがとうございます。引き続き「長泉寺杖心会」をよろしく願います。

## 奉納



榊GROP会長夫人・原田清子様(写真右)

この度、来る七月十二日奉修予定「白須賀観音 夏まつり」を盛り上げようと、株式会社GROP様（代表取締役・原田竜一郎様）より、同社がスポンサーを務めるサッカーリーグ「フアジアーノ岡山」様の公式ユニフォームをご奉納いただきました。心より深く御礼申し上げます。  
なお、同ユニフォームは、白須賀観音夏まつり「お楽しみ抽選会・子どもの部」において、当選者に贈呈させていただきます。ご了承ください。

### 当山第二十五世

## 秀昭和尚十三回忌法会

光研名譽住職の実兄で、昭和三十七年から同五十二年まで当山住職を勤めた宮本秀昭和尚（平成二十五年五月三十日遷化）の十三回忌法会が五月二十九日、亡き和尚が主院として住職を勤められた中蔵院（玉野市北方）にて奉修されました。

当山より光研名譽住職および龍門住職が出仕し、報恩謝徳、ならびに倍增法楽をご祈念申し上げます。



中蔵院本堂にて 令和7年5月29日

## ご詠歌巡礼

ご詠歌会恒例の「ご詠歌巡礼」は四月十五日、香川県直島にある高野山真言宗極楽寺様を参拝。同寺は理源大師聖宝尊師のご開山で、保元の乱（一一五六年）に敗れ直島に立ち寄った崇徳天皇を弔うお寺です。歴史ある本堂で本尊阿弥陀如来様にご詠歌を奉納させていただきました。

「瀬戸内芸術祭」開幕直前の「アートの島」を堪能しながら、お昼は地元の海の幸をいただきました。

また、六月三日には真庭市種の真言宗御室派本明寺様を参拝。同山ご住職より丁寧なるおもてなしをいただき、新築されたばかりで美しく、かつ荘厳類も大変立派なご本堂でご詠歌をお唱えさせていただきました。その後は蒜山へ立ち寄り、ジャージーアイスクリームに舌鼓。楽しい一日となりました。

さらには六月十日、あいにく



の雨天に見舞われる中、池田動物園内「白須賀観音堂」を参拝。白須賀観音をめぐる藩主池田家と当山との法縁に感謝しながら、ご詠歌を奉納させていただきました。

なお、長泉寺ご詠歌会はこの度、これまで所属していた高野山金剛講山陽地方本部が本年三月末日を以って解散したことにつき、総本山仁和寺が所管する「御室金剛講」へ転入し、新たに支部を設立しました。今後は、「御室金剛講 長泉寺支部」として活動をしてまいります。

弘法大師ご誕生慶祝法会

# 青葉まつり

岡山市弘法大師降誕会（事務局・長泉寺）は六月十五日、弘法大師空海様のご誕生を慶祝し、お大師様と参拝者皆様とのご縁を深める「青葉まつり」を開催しました。

岡山市内の真言寺院十五ヶ寺によって結成される岡山市弘法大師降誕会は、大正八年より毎年六月十五日に当祭を開催してまいりました。本年は、岡山市中区御成町にある真言宗御室派



青葉まつり 大福寺本堂での様子



岡山市弘法大師降誕会

大福寺を会所にして行い、八十名超の方々にご参拝いただきました。ご参拝いただきました皆様には感謝申し上げます。

また同会は、毎年十二月二十一日に、一年の懺悔をお大師さまに申し上げる「終い弘法懺悔会」を岡山市北区磨屋町にある高野山真言宗金剛寺の駐車場にて奉修しております。

《岡山市弘法大師降誕会》

安住院（国富）・光明院（野田屋町）・金剛寺（磨屋町）・常福寺（葵町）・最城院（七日市）・上興院（玉柏）・上生院（桜橋）・大福寺（御成町）・長泉寺（南方）・徳与寺（徳吉町）・仏乗寺（門田本町）・普門院（国富）・法殿院（磨屋町）・法萬寺（原）・法輪寺（国富）

## お知らせ

～毎夏恒例の「おせがき行」について～

毎年8月恒例の「おせがき行」は、近年の酷暑を鑑み、本年よりバス旅の実施を取り止めます。  
**長泉寺本堂にて「せがき法会」のみを奉修し、檀信徒交流の機会にもなっていたバス旅は今後、十一月～十二月頃（予定）に別の企画を以って代替いたします。**  
檀信徒皆様にはどうかその旨、ご理解、ご容赦賜りますよう宜しくお願いいたします。

## 灯笼流し

新盆の御方をはじめ、どうぞ皆様にはご来場、ご参拝くださいませ。

記

八月十六日十八時

於 西川 下石井公園

灯笼 九百円

当日千円

主催 岡山市仏教会

## 長泉寺の縁日法会

毎月8日10時～ 本尊縁日法会  
法話/写経

21日10時～ 大師縁日法会  
法話/写経/空海プログラム(法話)/お接待

28日10時～ 不動縁日護摩供  
必生不動明王護摩供養/不動真言念誦行

五回目となる今回は、我々日本人が持つ神仏習合の精神性についてご紹介いたします。

### 明治期の宗教変革

さて、前回までに見てきた通り、我が国へ仏教が伝来した六世紀以降、神仏が互いに守護し合う形で、一、三〇〇年以上にわたってカミとホトケは習合してきました。

それが劇的に変化したのが明治期です。新政府によって、カミとホトケを判然とさせるための神仏分離政策が推進され、全国各地の神社と寺院が隔絶されました。またそれは、寺院の既得権益に対する不満、並びに国学を推進する側からの仏教批判も絡まり、まもなく「**廃仏毀**（はいぶつぎ）**釈運動**」にまでエスカレートしてしまいます。※その内容は次号に詳記します。

した約九万ヶ寺の半分が廃寺となりました。明治期の廃仏毀釈は、日本仏教史における最大の事件でありましょう。

### 皇室の神仏分離

そのような明治期の宗教変革において、さらに重要な意味を持つのが宮中の変化です。

近世までの天皇は、まさに神仏習合の体現者であられました。即位礼をはじめ、様々な宮中祭祀が神仏両式で修され、神仏合同で鎮護国家が祈られました。

ところが「**王政復古**（おうせいふくこ）」、即ち「**祭政一致**（さいせいいちち）」を目指した明治政府にとつて、天皇は唯一「**現人神**（あらひとがみ）」でなければならず、仏式の儀礼はすべて宮中から排除されることになったのです。

### 「宗教」ではない神道と仏教

もう一つ特筆すべきことは、新政府による神道の扱いです。仏教を「宗教」として扱った一方で、神道は「宗教」とは違う

ものとして扱いました。

そもそも「宗教」という言葉自体が明治期に作られたもので、それはキリスト教を含む外来の宗教（＝Religion）が主に意識されている翻訳語です。したがって、我が国古来の神道はそれに該当しない、と考えられたのです。即ち天皇を中心とする国体それが神道であり、国民が崇敬すべき精神文化のようなものとして扱われたのです。

もちろん現在では、戦後に出来た宗教法人法の下、神社本庁も宗教法人となっていますが、「**政教分離**」の原則を持つ現在もなお天皇が神式で各種御儀礼に臨まれるのはそのためです。制度上は「宗教」であっても、精神文化としての神道はそれ限定されないので。

一方の仏教も、「宗教」として扱われることにはなったものの、しかし先述の通り、「宗教」は明治期以降に使われるように

なった言葉です。言い換えれば、

我が国にはもともと「宗教」という概念がなかった、ということです。したがって近世までは、神道のみならず仏教についても宗教だという認識はありません。

ただし、もちろん「**信仰**」はありました。時代が変遷する中で、**経論解釈**やその実践は様々な違いを生み、中にはお大師様のように**宗祖**となるような人物も現れてきます。その違いは「**宗**（しゅう）」（かつては「**衆**（しゅう）」）として、現在にまでおよぶところ。ただし、その違いがカミやホトケを否定することはありません。違いはあっても、神仏への信仰は一貫して持ち合わせていますので、「**宗教**（＝Religion）」と「**宗**」は似て非なるものであります。

### 「宗教」は個人が選ぶもの

仏教伝来以降、カミとホトケは習合し、長い年月をかけて思

想的にも文化的にも強化されていった結果、神仏習合は実に一三〇〇年以上にわたって続きました。今更にそれを何かと言うならば、「そういう宗教だった」とも言えるでしょう。しかし一千年以上も続くと、「宗教」と言うより空気や水のようにあたり前に存在し、それに対して何の疑念も違和感もないといった状態になっていたはずです。

現在、我が国において「宗教」という言葉が放つイメージは、個人が自分の意志で選び、信じるもの、というようなニュアンスだと思えます。それは憲法にもよく表れています。日本国憲法では、個人として尊重される国民一人ひとりが持つ「基本的人権」の下に、「信仰の自由」が保障されています。それは「宗教は個人が選ぶはずのもの」という大前提が、不文律として存在するからに他なりません。しかし近世までは「宗教」と

いう概念そのものがないのです。したがって、個人がそれを選ぶという発想も生まれにくいでしょうし、カミやホトケを「信じる」とか「信じない」とか、そういう思考も弱いでしょう。

いわば、カミもホトケもその存在を選ぶ前に過不足なく与えられており、その暗黙の大前提を共同体全体で共有している時代だったのです。

### 今日の神仏習合

では現代はどうでしょうか。かつて「宗教」がなく、共同体全体がカミとホトケを自然に享受していた明治期以前とどのよう違うのでしょうか。

明白なのは神社があり、寺院があり、教会やその他の宗教施設もあるというのが現代で、それぞれの宗教が別々の宗教として区分されていることです。それは近世までにはあまりなかった現象です。

とはいえ現代でも、神道と仏教に限っては未だにハッキリとは分けられない部分もあります。明治期の神仏分離を経てもなお、全国各地に明神みんじんや権現ごんげんは現在進行形で祀られていますし、神社のような寺院もあれば、寺院のような神社もあります。

そして最も重要なことは、自分自身の宗教（信仰）が神道だとか仏教だとか、そういった自覚を多くの日本人が持たないということです。普通に神社へも行くし寺院へも行くし、家には神棚も仏壇もある、いずれもごく一般的なことです。仏式で葬儀をするのを、「自分は仏教徒

だから」とことさらに理由付けする人は少ないでしょうし、お正月に神社へ初詣に行くのも「自分は神道者だから」という人も少数でしょう。それらは「宗教」として言うより、この国に生きる者としてごく自然な心の有り様だと言う方が的確ではないでしょうか。

なお、それは信仰心が弱いということではありません。この国に住む個々人がカミとホトケの一方をわざわざ選んでいるわけではない、というだけで、むしろ現代を生きる我々も神仏双方をごく自然に享受し、そういう信仰を社会共同体として維持し続けている、ということでありましょう。

明治の神仏分離を経ても、我々日本人の心の中ではずっと神仏習合は続いているのです。

次回、「神仏習合」についての最終回として、「廃仏毀釈」をご紹介します。（続く）



吉田神社（京都）「齋場所大元宮」  
※神道、仏教、儒教などの諸宗教統合を理想として、それを形に表している

昭和5年の岡山市電車筋 渡辺泰多氏所蔵写真

# ナーガ 長泉寺合唱団 Naga ハートフルコンサート

～ 岡山大空襲 80 年忌メモリアル ～  
&  
～ Naga 結成 10 周年記念 ～

**6 月 29 日(日)14:00～15:30 開場 13:30**

参加無料  
於:長泉寺本堂

岡山大空襲以前と以後の岡山市街地写真を映写しながら  
ナーガの歌声をお聴きいただけます  
空襲によって失ったものとその後 80 年間の歩みを通し  
平和の尊さを感じていただければ幸いです

写真提供協力:岡山大空襲展示室様・岡山県立記録資料館様・六高記念館様・渡辺泰多様

「白須賀観音夏まつり」  
**奉納のぼり幡のご案内**  
 施主名を記載したのぼり幡を、当祭  
 開催1週間前より当祭開催日まで境  
 内にかかげます。奉納施主をお勤めい  
 ただけます御方には、6月5日までに  
 当山まで一報下さいませ。

金 伍千円也 / 幡一基

## 長泉寺 寺子屋 文化講座

Vol. 52

報恩大師の伝承と信仰

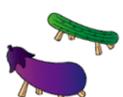
ひらまつのりあき  
 講師: **平松典晃** 先生  
 岡山民俗学会

**7 月 22 日(火)**  
 19:00～20:30  
 於:長泉寺本堂

参加無料・定員 50 名  
 参加ご希望の方には、  
 事前にお申込み下さい。

## 回向 檀信徒各家精霊

# 盂蘭盆総供養法会




**8 月 15 日(金)9 時～10 時 受付 8 時半～ 於:玉佛堂**

永代供養をされている方、お盆行時にお留守をされた方など、  
 ご参列を希望される方にはお時間までにお位牌をご持参ください

## 将棋クラブ

毎月一回 客殿で開催中 参加無料

■85 回目  
 7 月 21 日(月祝) 13:30-16:00

■86 回目  
 8 月 30 日(土) 13:30-16:00

いつも集まったメンバーで楽しくやっています。  
 どなたでもお気軽にご参加ください。

## 中国 洛陽・西安

「日中仏教文化交流訪問」の旅

弘法大師入唐の足跡と、真言法  
 流のルーツをたずねます。一生に  
 一度の貴重な機会となりますので、  
 ぜひ一緒に参りましょう。

主催 長泉寺 杖心会 ※詳細別紙  
 後援 岡山市日中友好協会

**10/16(木)～21(火)**

長泉寺の公式ホームページをぜひご活用下さい

長泉寺 南方

検索

住職のブログ、月行事日程、文化教室のご案内など長泉寺の様々な情報がご覧になれます